

企画展示

陰陽師とは何者か

—うらない、まじない、こよみをつくる—

そして、**本物**に出会う



2023年
10月3日(火)▷12月10日(日)
国立歴史民俗博物館 企画展示室 A・B

開館時間=9:30~16:30(入館は16:00まで)

休館日=月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館)

入館料=一般1,000円 大学生500円 ※高校生以下入館無料

※総合展示・くらしの植物苑もご覧いただけます。 ※混雑状況により入場制限を行う場合があります。

主催=大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

特別協力=おおい町歴史館、おおい町立郷土史料館、福井県立若狭歴史博物館

後援=一般社団法人日本カレンダー暦文化振興協会、株式会社トーガン、おおい町(福井県)

*本展は科学研究費基盤研究(C)「古代~近代陰陽道史料群の歴史の変遷と相互関係の解明」の成果の一部です。

上から:天正十二年写本「金鳥玉兔集(籠篋)」(部分)/渾天儀 すべて本館蔵



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117

【お問い合わせ】 ハローダイヤル:050-5541-8600

<https://www.rekihaku.ac.jp>

最新の情報はホームページ等をご確認ください。

企画展示

陰陽師とは何者か

—うらない、まじない、こよみをつくる—

陰陽師とはどんな存在だったのでしょうか。この展示では、あまり知られていない陰陽道の歴史とそこから生み出されてきた文化をさまざまな角度からとりあげて考えてみます。古代において成立した陰陽道は中世から近世へと、その役割を広げながら、多様に展開していきました。その姿を具体的な史資料をもとに、明らかにしていきます。

安倍晴明は平安時代の実在した陰陽師ですが、陰陽道の浸透とともに、伝奇的なイメージが付け加わっていきます。その姿を追うことで陰陽道の性質をとらえることも試みます。さらに陰陽師たちが司る暦の製作や形式の変遷を見つめることによって、人びとが陰陽道に求めたものが見えてくるでしょう。

■展示構成 ※会期中展示替えを行います。

■プロローグ 陰陽師をさぐる

Ⅰ 陰陽師のあしあと

- 一 陰陽師、あらわる—古代の陰陽道
- 二 陰陽師、ひろがる—中世の陰陽道
- 三 陰陽師、たばねる—近世の陰陽道
- 四 陰陽師の仕事
- 五 陰陽道と民俗

Ⅱ 安倍晴明のものがたり

- 一 安倍晴明とその子孫
- 二 安倍晴明のライバルたち
- 三 転生する安倍晴明

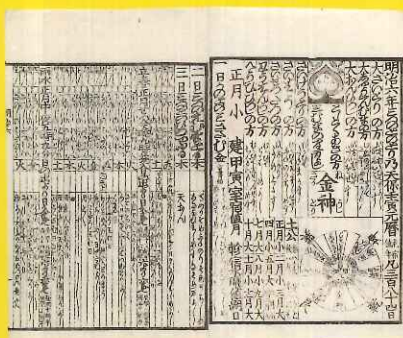
Ⅲ 暦とその文化

- 一 暦をくばる
- 二 暦をかえる
- 三 暦をそるえる

エピソード 陰陽師がのこしたのもの



東北院職人歌合
「陰陽師」(一部加工)
室町時代



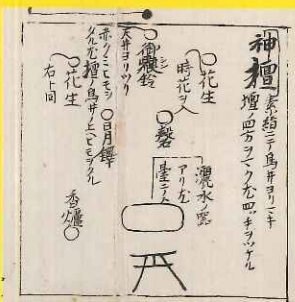
明治6年暦(最後の旧暦) 明治5年(1872)



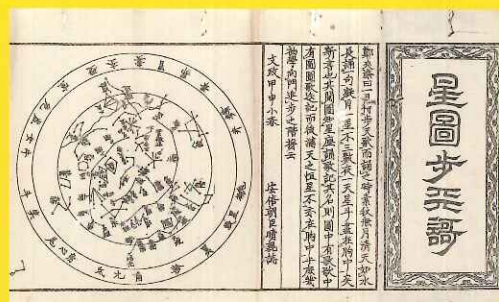
渾天儀



大ざつしよ 寛永8年(1631)

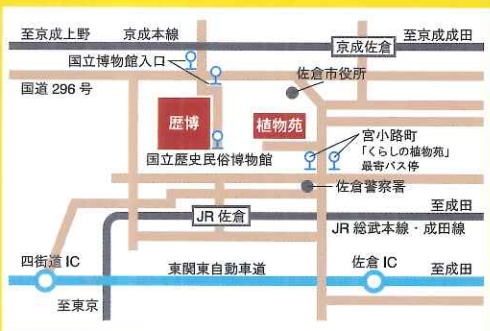


天曹地府祭園(部分) 安永10年(1781)



星圖歩天歌 文政7年(1824)

すべて本館蔵



■関連する催し物

※事前申し込みが必要

- 第117回 歴博フォーラム
- 「陰陽師と暦」小池淳一 他
- 10月7日(土) 12時30分～16時15分
- 第447回 歴博講演会
- 「陰陽道と伝承文化」小池淳一
- 11月11日(土) 13時～15時

詳細はホームページをご確認ください。

■同時開催

- 第1展示室 特集展示「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」
- 11月14日(火)～2024年2月12日(月・休)
- 第4展示室 特集展示「四国遍路 文化遺産へのみちゆき」
- 9月26日(火)～2024年2月25日(日)
- くらしの植物苑 特別企画「伝統の古典菊」
- 10月31日(火)～11月26日(日)
- くらしの植物苑 特別企画「冬の華—サザンカ」
- 11月28日(火)～2024年1月28日(日)

■交通案内

● 京成電鉄利用の場合：京成上野駅から京成佐倉駅(京成本線)特急利用の場合約55分、下車、徒歩約15分またはバス約5分(国立博物館入口)か、国立歴史民俗博物館下車
● JR東日本利用の場合：東京駅から総武本線佐倉駅(快速利用の場合)約60分、下車、バス約15分(国立博物館入口)か、国立歴史民俗博物館下車
● 自動車利用の場合：東関東自動車道四街道ICまたは佐倉ICから約15分(国道296号沿い)(無料駐車場完備)



式神